

事業研究委員会

1. テーマ

働き方改善（校務負担軽減）着目した事例調査・実践による教職員の研修に対する自主性・主体性の向上を図り、よりよい教育会活動体制について検討する。

2. テーマ設定の理由

昨年度は、ZOOM を活用したオンライン会議や菅平夏期大学、研究発表の継続を行った。アンケート結果からは、教職員の自主的・主体的な参加を確認することができた。また、YOU TUBE による動画配信や Google ドライブによる教材共有の実践を行った。時間の制約がなく、必要とする教職員が必要な時、時間に余裕がある時に参加できる形であり、校種や個人による時間や校務の違いにも対応することができる活動となった。今後も教育会においては、オンラインや動画配信などを積極的に活用し、教職員の多様な働き方に合わせた事業・活動が望ましいと本委員会では結論付けた。

そして、本委員会では、月 1 回の ZOOM による委員会活動によってこれらの研究活動を進めてきた。これらが主体的に活動できたのは、オンライン化を図ったことによるものだけでない。委員自身が必要とすること、教育会に必要だと感じてきたことを掘り起こしながら、チームを組んで活動を進めたことが大きな要因になったと考えている。初めてのことに對しても委員同士のつながりだけでなく、教育会の多様なつながりを生かすことで計画した活動を全て実現することができた。

今年度は、働き方（校務負担軽減）に着目し、それらが研修（教育会活動）への自主性・主体性にどのように影響するのかについて調査と実践を進めることとした。

3. 研究の計画

(1) 調査活動 5－7月

- ・教職員の研修に対する自主性・主体性について委員での対話
- ・ICT活用や日課の工夫による働き方改善の事例調査

(2) 実践 8－10月

- ①自宅での Google アプリケーションを使った授業準備
- ②自動採点システムを活用した定期テストの採点業務削減
- ③メールシステムを活用した学級だより・PTA活動に関する資料の発行

(3) 分析 11－12月

- ・委員による実践報告と、対話による研修に対する自主性・主体性向上に関する考察

(4) 発信 1－3月

- ・リーフレット等による研究成果の発信

4. 研究の実際

(1) 調査

さまざまな働き方改善の事例は書籍やインターネットでも検索できるが、学校全体を動かす事例は、委員会活動の研究としては取り組みにくい。そこで、委員が受け持つ校務分掌や

学習指導の中で、改善できる事例を集めて実践へ移った。

(2) 実 践

①Google アプリケーションを使った自宅での授業準備

(実践の背景)

- ・中学校所属のA教諭は、部活動等の指導、生徒指導、授業準備を同時に進めることに悩みを抱えていた。A教諭の願いは、生徒と向き合う時間を確保することである。

(実践)

- ・Google アプリケーションを用いて学習プリントや資料づくりを自宅で行った。

(結果)

- ・生徒と落ち着いて向き合う時間を確保することができた。
- ・また、事前に教材等とオンライン上で生徒に配布しておくことで、落ち着いて授業の始まりを迎えられた。

(考察)

- ・自宅での Google アプリケーションを利用した教材研究等は、実質的な校務の負担軽減とはならないが、心理的な負担を軽減させて校務にあたることができる。このことは、研修等に時間をかけたい場合にも同様な実践を行うことで、心理的な負担を軽減させて研修を行うことにつながられる可能性についても示唆されるものとなった。

②自動採点システムを活用した定期テストの採点業務削減

(実践の背景)

- ・中学校所属のB教諭は、定期テストの採点が休日の自宅での仕事となっていることに負担を感じていた。B教諭の願いは、休日を心休まる休日にするすることである。

(実践)

- ・自動採点システム（採点ナビ（kyoikusw.co.jp））を使って、定期テストの採点を行った。

(結果)

- ・勤務時間の中で採点業務が終わり、休日に採点することがなくなった。
- ・心休まる休日にすることができた。

(考察)

- ・休日の採点は無くなったものの、平日の採点業務があることは変わらないため、平日における研修の自主性・主体性への高まりは感じられなかった。
- ・しかし、休日を十分に休むことができるため、平日の校務へのモチベーションは高まり、研修等への自主性・主体性の向上につながる可能性は否定できない。
- ・どのような学校も本実践で利用した自動採点システムは一年間は無料で使えるものであり、一人で多数のクラスを持っている場合（少人数の教科会）には特に効果を感じられるものになるため、他の教諭も実践して、効果を検証していくことに価値はあるものと考ええる。

③メール配信サービスを活用した学級だより・PTA活動に関する資料の発行

(実践の背景)

- ・小学校所属のC教諭は、配布資料の仕分けや印刷など時間がかかることに、ストレスを感じていた。C教諭の願いは、時間をかけずに資料を配布し、教材研究等にかかる時間を確保することである。

(実践)

- ・メール配信サービスを利用して、PTAや学級だより等を配布した。

(結果)

- ・印刷や封筒への仕分け、封入の作業が削減され、教材研究等への時間を確保することができ、PTA活動の運営やお便りの発信などに負担をあまり感じなくなった。
- ・しかし、このことによって研修への自主性・主体性の高まりを感じることはできなかった。

(考察)

- ・実質的な校務負担、心理的な負担も軽減させることができたとしても、必ずしも研修への自主性・主体性が高まるとはいえないことが示唆された。
- ・この要因としては、C教諭の校務負担軽減への実践に取り組む目的が、そもそも研修に向いていないことにあると考える。

5. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究から、Google アプリケーションや自動採点システム、メール配信サービスによって、校務の負担軽減または心理的負担軽減は生まれることが明らかとなった。

校務の負担が軽減されたり、一部が削減されたりして生まれた時間は、研修とは異なるそのほかの校務や本来あるべき休養の時間に充てられる。そのため、研修への自主性・主体性へと繋げていくためには、働き方改善の目的を、喫緊の自身の悩みや困難さの解消から、自己の課題を研修を通して追究していくというものに徐々に転換していく必要があることが示唆された。

(2) 課題

本委員会として、教育会で研修することの魅力について、企画や委員会運営、リーフレットといった様々な角度から発信をしてきたが、容易に伝わるものではないと感じている。教育会において自己の課題をとことん追究できることのおもしろさをどのように仕掛け、発信していくことができるのかが今後の課題である。